

## 議 事 概 要

件 名	第1回 長崎港港湾脱炭素化推進協議会
日 時	令和5年8月30日（水）13時30分から15時00分
場 所	長崎県庁 行政棟3階 312会議室
出席者	別紙構成員名簿のとおり
内 容	<p>&lt;主な意見&gt;</p> <p><b>議事1 協議会の進め方の確認</b></p> <p>特に意見無し</p> <p><b>議事2 国における脱炭素化の取組状況</b></p> <p>特に意見無し</p> <p><b>議事3 長崎港港湾脱炭素化形成に向けた検討の方向性</b></p> <p>○構成員 A 長崎港港湾脱炭素化推進計画（以下、「長崎港 CNP 計画」）の策定期間はいつか。</p> <p>●会長 12月頃に開催予定の第2回協議会にて計画の素案を提示する。その後、来年3月頃に予定する第3回協議会にて計画（案）を提示し、構成員より了承を得れば、計画が策定することとなる。</p> <p>○構成員 B 長崎港 CNP 計画の対象範囲はどこか。離島地域は含めないのか。また佐世保港との関係性はどのようになっているのか。</p> <p>●会長 長崎港 CNP 計画の対象範囲は、長崎港の港湾区域及び臨港地区を想定し、検討を進めて行く。 港湾脱炭素化推進計画は港湾毎による計画であるため、離島地域の港湾は別途策定していく。 佐世保港は港湾管理者が佐世保市であるため、別途市において検討が進められている。</p> <p>○構成員 C 港内船舶の CO<sub>2</sub> 排出量推計を行うにあたって、計画対象範囲内における停泊及び航行が対象となるのか、計画対象範囲外も含めた船舶が運航する全てが対象となるのか。</p> <p>●事務局 CO<sub>2</sub> 排出量の推計方法について確認を行い、改めて回答したい。</p> <p style="text-align: right;">一次ページへ続くー</p>

○構成員 D

小ヶ倉柳地区に配備している荷役機械であるストラドルキャリアについて、今後更新する際には脱炭素に配慮したものとなるのか。

●会長

脱炭素化に対応したストラドルキャリアへの更新は、現在検討中である。ストラドルキャリアなど荷役機械について、脱炭素化への技術開発が進められていることから、その動向を注視しながら、電動化された機械等への更新について、時期も含め検討を行っていく。

○構成員 E

水素・アンモニア等の需要推計や供給目標の推計方法は如何か。

●事務局

国が示す「港湾脱炭素化推進計画」作成マニュアルに基づき、推計する。

**議事 4 情報交換等**

●事務局

臨海部に集積する工場において、脱炭素化に貢献する機材が製造されているが、その過程で生じるCO<sub>2</sub>について、回収や次世代エネルギーの活用により、排出量削減が進めてられていく予定か。

○構成員 F

そのとおりである。サプライチェーン全体における脱炭素化への取り組みについて、長期スパンではあるが、進められていくと考える。

**その他**

○構成員 G

脱炭素化の取組みを実行していく中で、予算の確保も必要となる。そのため、長崎港 CNP 計画において、特徴を打ち出していく必要があると考えるが如何か。

●事務局

国が示す「港湾脱炭素化推進計画」作成マニュアルでは、港湾の特徴に即した計画を作成することとしており、長崎港においても特徴を踏まえた計画を作成していきたい。また、現在の利用状況に対応した脱炭素化への検討を行うことにより、おのずと長崎港の特徴が打ち出されていくとも考える。

○構成員 H

今回作成を進める長崎港 CNP 計画の目的は、脱炭素社会の実現のために長崎港の取組み方針を示すところにある。脱炭素化社会に向けて官民が連携することが第一歩目であり、港湾全体として取り組めるところから、手を付けていくことが大切と考える。

—以上—

【別紙】

## 長崎港港湾脱炭素化推進協議会 構成員名簿

(五十音順)

区分	所属	備考
団体 ・ 企業	株式会社 大島造船所	
	西部ガス長崎 株式会社	
	長崎港運協会	
	長崎港コンテナターミナル運営協会	
	長崎地区海運組合	
	長崎旅客船協会	
	三菱重工業 株式会社	
行政 機関	国土交通省 九州地方整備局 長崎港湾・空港整備事務所	
	長崎県 県民生活環境部 地域環境課	
	長崎県 産業労働部 新産業創造課	
	長崎県 水産部 漁港漁場課	
	長崎県 土木部 港湾課	
	長崎県 長崎振興局 長崎港湾漁港事務所	会長
	長崎市 環境部 ゼロカーボンシティ推進室	
オブ ザーバー	九州電力 株式会社 長崎支店	